









1035  
1-4

改訂教授術序

教育闡世道之大矣邦國之隆替休戚身家之否泰與廢  
皆莫不根乎斯時乎生為任事者經事始為專門一科  
之教授者故其言術深而務實施諸授業于子弟於學若  
年齒既長各逐其好尚而肄業皆於其材量所宜大材  
大成少材小成若此夫唯視格之合宜如身之已亦不違同至  
勤勉如身進取如身之進請之深涉如身之辟諸牧群積  
于郊飲衆駒于河各充其腹而止牧者復何其闡官也



為或或輕矣唯其充種者在中小學之域乎蓋其所者皆  
稚兒小童其所教者普通學課經以開知修德之規縵以興  
育養生之節於是有一而四之宜者必將見偏勝之害  
况有為者誤之於身乎譬諸場中誤栽樹苗伸者曲者斜  
者欹者後者之若兩樹者若蒼若矮細歪折者科於此  
也宜以之為種乎且又擇其法不宜過大必兒童苦於生  
包居小者區移必思其損之記性故為法宜依其物之勉  
資稟之所存抑有缺補不足諒之惟恐其文情不實也

諸取腹大口之瓶而注入多量之水不可急遽不可直緩唯在  
徐之不倦漸以導之使兒童盈科而進之已苟有此誠意而少則  
不傷其多成幾希矣東京師範學校助教諭若林虎三郎附屬  
小學訓導白井毅在本學多年統率業補習教員今摘其取耳提  
面命之勞呈之有閱歷可知矣頃者二君合力著故西文教授  
法系文而法之備身護方迄地理博物凡小學教員一課目  
呈示略備不提之綱領西文法序進止有節開法之法是  
成乎之體臨實踐之條也可志矣世志於此者有海



於此至思過之半矣余因慕德公於世亦不獨為天下為師  
者渴之道乃予知渴之方至也雖然是規矩也豈久  
運用之妙亦存生人也歟

明治十六年三月 從四位勲三等西園撰并書



此書之序也... 凡此皆... 故曰...

改正教授術序

教育ハ社會ノ進歩ニ伴フテ進行セサル可ラス  
故古今ノ教育ハ古ノ教育ト殊ナラサルヲ得サ  
ルナリ古ハ人智未タ開ケス交際未タ廣カラズ  
隨テ學倫不可キ事物亦甚タ簡單ナリ今ハ則之  
ニ反シテ百般ノ學科並ニ起リ交通世界ニ遍ク  
在リ各人其智識ノ求ム可キモノ聞見ノ博ム可  
キモノ古ニ倍蓰ス故ニ教育ノ事業頗ル多端  
トナリ之ヲ教授スルノ方法亦甚タ容易ナラサ  
ルニ至ル世ノ教育ニ從事スルモノ憤勉セサル



可ラス我國維新ノ后王政ノ隆興ト共ニ教育ノ  
 道煥然觀ヲ改ム特ニ教授ノ方法ノ如キハ古來  
 軍ニ記誦注八ノ法ニ據リシモ今ハ變レテ開  
 發抽出ヲ重ニスルニ至ル是レ教育者ノ主トシ  
 テ著目ス可キ要点ナリ然ルニ若シ教育者ニシ  
 テ教育ノ變遷ニ應セス巴レテ改良スルノ道ヲ  
 求メス徒ラニ拘々乎トシテ舊習ヲ墨守スル中  
 ハ夫ノ人ノ子ヲ賊ヒ社會ノ進路ヲ碍クルノ責  
 ヲ免レサルベシ頃日若林氏白井氏ト共ニ教授  
 ノ方法ヲ編著シ名ケテ改正教授術ト曰フ刻成

ルニ及テ序ヲ予ニ乞フ予之ヲ一閱スルニ其說  
 ク所詳明懇切蓋シ教育者參考ノ一助タルヲ失  
 ハサルヘシ乃チ予力嘗テ感スル所ヲ書シテ卷  
 端ニ實ス

明治十六年五月

麟山小史



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the title '改正教授術' and other illegible characters.



改正教授術

野齋學用器二至



明治十四年十月廿四日  
普及舎齋印

又スタロヂト首メ元心理學ノ主義ヲ教育  
上ニ實用セシヨリフレール、アガシス輩之  
ヲ紹述シ近來スベシサト、バイン等悉ク教  
育ニ根據ヲ心理學ニ取ラザル可クザル所  
以テ論述シテ外座ヲ以テベスタロヂト本功  
益顯レ允歐米ニ教育ヲ説クモノ多少其見  
解ヲ異ニスル所アリト雖要スルニ此範圍



ノ外ヲ出デズ

此等ノ刺撃ハ大ニ我國教育家ノ腦裏ニ感觸ヲ與ヘ從來空誦諳記ノ弊ヲ一洗シ教授ノ方法ヲシテ心性開發ノ點ニ傾向セシムルニ於テ惟レ日モ足ラザルガ如シ  
抑モ我東京師範學校附屬小學校ノ如キハ數年來大ニ教育ノ面目ヲ改メ教授其法ヲ得テ教具悉ク備リ彼鳥獸草木金石ノ標品ヨリ理化地理諸學用ノ器ニ至ルマデ苟モ

生徒ノ心力ヲ開發提醒スルニ裨益アリ  
ハハ一トシテ蒐集セザルハナリ於此乎學室ハ心性ヲ養成教練スル處事物ヲ實驗操作スルノ場ナリ生徒ノ知識確實ニシテ其進步亦著キヲ見ルニ足レリ余則不敏又幸ニ其間ニ執掌スルヲ得テ聊カ自ラ淑クル所アリ昨明治十五年七月偶文部省ノ命ヲ奉シ福嶋縣伊達郡ノ教員ヲ講習スルニ與ルコト四十有餘日ニシテ其教授セシ所



ノ各課ノ草案哀然卷ヲ爲シ京ニ歸ルノ後  
同好ノ士其草案ヲ得テ參考ニ供セシト請  
フモノ敢テ鮮カラザレバ此種文書モ亦果  
シテ現時ニ有用ナルヲ知ル故ニ白井毅氏  
ト謀リ大ニ増補刪訂ヲ加ヘ梓ニ附シテ廣  
ク教育者ノ覽ニ供シ聊カ我國ノ教育上ニ  
於テ改良ノ一助タラシメ其意欲ス  
然リト雖吾人眼前ニ天然ノ活書ヲ有セリ  
ペスタロヂーノ教育ニ名アル生徒ニ卷帙

ヲ繙閱シタル 效ニ非ズシテ數年間實地  
ニ經驗考覈シタルノ結果ナリ故ニ諸君若  
シ能ク生徒ノ性質動作心性發達ノ順序及  
其諸力ノ作用ト關係トヲ觀察シテ其理ヲ  
講究シ之ニ加フルニ慈愛ト熱心トヲ以テ  
而シテ教授ノ事業ニ任セバ其術ヲ得ルニ  
於テ乎何カ有ラン哉何必モ人造ノ死書ヲ  
待タン噫

明治十六年四月廿日

若林虎三郎 識



改正教授術

目次

卷一

端緒

修身課

讀方課

作文課

習字課

卷二

算術課

地理課

圖畫課

卷三

博物課

動物

植物

金石

改正教授術卷一

若林虎三郎

白井 毅

編纂

端緒

- (一) 教授ノ主義
- (二) 疑問ノ心得
- (三) 方法書ノ必須 附略語ノ解
- (四) 批評ノ諸點

第一、教授ノ主義

左ニ掲クル諸主義ハ、右クテ、其他諸教育家ノ幾多ノ理論ト經驗トヲ積ミテ組成セルモノニシテ、現今教育諸大家ノ一般ニ是認スル所ノモノ



ナリ故ニ教師者熟復翫味充分ニ其意義ヲ明ニシ  
常ニ之ニ因リテ業ヲ授ケバ庶幾クハ教授ノ正鵠  
ヲ失ハザラン今此書モ亦此等ノ主義ニ基キテ編  
述セリ

一、活潑ハ兒童ノ天性ナリ

動作ニ慣レシメヨ

手ヲ習練セシメヨ

二、自然ノ順序ニ從ヒテ諸心カヲ開發スベシ

最初心ヲ作リ後之ニ給セヨ

三、五官ヨリ始メヨ

兒童ノ發見シ得ル所ノモノハ決シテ之ヲ説明スベ  
カラズ

四、諸教科ハ其元基ヨリ教フベシ

一時一事

五、一步一步ニ進メ

全ク貫通スベシ

授業ノ目的ハ教師ノ教能ヲ所シ者ニ非ズ生徒ノ

學ビ能フ所ノ者ナリ

六、直接ナルト間接ナルトヲ問ハズ各課必ズ要點ヲカ  
ルベカラズ

七、觀念ヲ先ニシ表出ヲ後ニスベシ

八、已知ヨリ未知ニ進メ

一物ヨリ一般ニ及ベ

有形ヨリ無形ニ進メ



易ヨリ難ニ及ベ  
近ヨリ遠ニ及ベ

簡ヨリ繁ニ進メ

九、先ヅ總合シ後分解スベシ

第二、疑問ノ心得

疑問ノ適否ハ心力ノ開發學藝ノ進歩如何ニ関ス

ルヲ以テ教授術中最緊要ナルモノ、一ナリ故ニ

左ノ條項ヲ服膺シ生徒ニ對シテハ一問ト雖モ充

分ナル注意ヲ加ヘ決シテ之ヲ輕忽ニスベカラズ

一、明白ナルヲ要ス

二、主意ニ的中スルヲ要ス

三、生徒ノ力ニ適スルヲ要ス

四、簡約ナルヲ要ス

五、論理的ナルヲ要ス

六、模擬、語調、顔色等ヲ以テ暗ニ生徒ヲ導クベカラズ

七、答旨ヲ含ムベカラズ

八、答旨ニ反對シタル意味ヲ含ムベカラズ

九、兩様ノ語ヲ發シ之ヲ撰バシムベカラズ

十、常ニ同法ヲ用井ルベカラズ

十一、一言半句ヲ以テ答ヘシムベカラズ

第三、方法書ノ必須附略語ノ解

方法書ノ必須ナルコトハ令更ニ喋々ヲ要セザレ

ドモ教師ノ方法書ニ於ケル猶舟ニ楫アルガ如シ

舟ニ楫ナクンバ行ク能ハズ教師ニ方法書ナクン



ハ授業ノ成功ヲ期スル能ハズ故ニ教師ハ各課ノ授業ヲ爲サザル前ニ教授ノ主義及疑問ノ心得等ニ基キ豫メ精細ナル方法書ヲ作爲スルコト最緊要欠クベカラザル事トス

方法書ノ記載法ニ種々アレドモ今其最簡明ニシテ便利ナルモノヲ左ニ掲グ

何課教授方法書後ニ掲ゲタル算術、地理、博物等ノ部ニ示セル方法書ヲ參考スベシ

第何歩 第何課

一、目的 此處ニハ其課ニ於テ練習スベキ諸心カヲ記シ

且其他陶冶スベキ事項ヲ書ス

二、大意 此處ニハ開發スベキ觀念ヲ記シ且教授スベキ

言語文字ヲ書ス

三、題目 此處ニハ教授スベキ事項ヲ記ス

四、方法 全方法ハ即教授ノ手續ニシテ左ノ如ク區分ス

(一)復習 此處ニハ前ニ授ケタル事實ヲ能ク記憶スル

ヤ否ヲ試ムルニ要用ナル教師ノ問ト生徒ノ

答トヲ記ス

(二)教授 此處ニハ授クベキ事項ノ觀念ヲ開發シ且言

語文字ヲ教フルニ要用ナル教師ノ問ト生徒

ノ答トヲ詳記ス

(三)演習 此處ニハ授ケタル觀念ト言語文字トヲ一層

明確ニ爲サンガ爲ニ要用ナル教師ノ問ト生

徒ノ答トヲ記ス

(四)約習 授ケタル事項ノ要ヲ語り或ハ書セシムルニ



必用ナル教師ノ問ト生徒ノ答トヲ記ス

附、方法書ニ用井ル略語ノ解

教ト書スルハ教師ノ略、生ト書スルハ生徒ノ略又時々○  
符ヲ記シテ教師ノ問ヲ徴シ△符ヲ以テ生徒ノ答ヲ示ス  
コトアリ

級決ハ全級ニテ可否ヲ決定スルノ略

教可ハ級決シタルコト正當ナレバ教師之ヲ可決スルノ

略

各唱ハ生徒ヲシテ交番ニ唱ヘシムルノ略又各讀トモ記

ス

齊唱ハ全級一齊ニ唱ヘシムルノ略又同唱或ハ齊讀トモ

書ス

擧手ハ生徒ヲシテ手ヲ擧ゲシムルノ略

書板ハ黑板ニ書スルノ略

拭板ハ黑板ニ記シタル文字或ハ圖畫ヲ拭去スルノ略

### 第四批評ノ諸點

批評ノ諸點トハ他教師ノ授業スルヲ見テ如何ニ

批評スベキヤノ要點ヲ示セルモノニシテ師範學

校ニテハ特ニ必要ナルモノナリ其教師ハ教生

徒ヲ受持モノノ教授ヲ觀察シ常ニ此等ノ諸點ニ

訴ヘ批評ヲ加フルコト最有益ナリトス

### 一、題目

(一) 生徒ニ適當スルヤ

(二) 教課ハ一點ニ歸スルカ或ハ數項ニ分ルカ



(三) 若シ修身課ナラバ實地ノ適用ヲナシ、ヤ  
二方法

- (一) 教員ノ自ラ言ハザルヲ得ザルコト、生徒ニ言ハシメザルベカラザルコト、ヲ辨別セシヤ
- (二) 種々ノ心カヲ區別セシヤ又何時ニ何心カヲ用井ルベキヤヲ知ルヤ且ツ其レヲ如何ニ練習セシヤ
- (三) 善キ解明ノ器具ヲ用井シヤ  
標本ハ各生ノ見得ル様ニ充分大ナリシヤ略畫ヲ入用ナル時之ヲ書キシヤ
- (四) 適當ナル疑問ヲ用井シヤ  
注入的ノ疑問ヲ止ヲ得ザル時ニノミ用井シヤ
- (五) 塗板ヲ十分ニ用井シヤ且ツ新ニ出テタル文字ヲ塗

板ニ書ヒシヤ又題目解説ヲ書キシヤ優等生ヲシテ  
定義等ヲ書ヒシメシヤ

- (六) 演習ハ適當ノリシヤ  
約習ハ何種類ヲ用井シヤ又其種類ハ其課ト其生徒ニ適セシヤ  
二適セシヤ舉手、齊唱、級決等ヲ適當ニ用井シヤ
- (七) 教課ハ時間ニ適合セリヤ

三、教師

- (一) 其級ヲ能ク管理スルコトヲ得シヤ
- (二) 其教師ハ總テノ生徒ニ注目セシヤ  
又目前二三ノ生徒ニノミ教ヘシヤ  
正シキ位置ニ居リシヤ  
輕躁力奮勵力遲緩力怠慢  
カ快爽力勢カ力力力力
- (三) 行儀ハ適當ナルカ



若シ修身課ナラバ尊敬スベキ語調ヲ用井シヤ

(四) 言語文字ハ適當ナリシト章句ハ正シキカ文字ハ誤ナキカ

### 四、生徒

(一) 生徒能ク教師ヲ尊敬スルノ状態ヲ呈セシヤ又能ク注意勉勵セシヤ又生徒ハ喜悅感覺ヲ起セシヤ其感覺ハ何ニ因リテ起リシヤ

(二) 生徒ハ其課ヲ全ク理解セシヤ

若シ修身課ナラバ生徒ノ心ハ之ニ感動セシヤ

### 修身課

#### 第一 緒言

修身ノ教育ハ固父母ノ補助ヲ要スルモノニシテ獨リ教師ノ盡力ノミヲ以テ其充分ナル目的ヲ達スル能ハザルモノナレドモ學校ニ於テ影響ヲ及ボスコト亦頗大ナルモノナレバ教師ハ特ニ之ニ注意シ生徒ノ道德ヲ改良スルニ汲々タラザルベカラズ文部省教則綱領ニ於テ諸課ニ先チテ此課ヲ掲グル亦蓋此意ニ外ナラザルベシ總ベテ兒童ノ道德ヲ改良スルニハ教訓ト模範ト練習トヲ要スルモノナリ所謂教訓トハ仁義五常ノ道ヲ説キ或ハ洒掃應對進退ノ節ヲ教フルノ類ニシテ都ベテ生徒ニ修身上ノ智識ト



品行トヲ授クルナリ  
 所謂模範トハ教師躬ラ正道ヲ行ヒ品行ヲ修メ生徒ヲシ  
 テ之ニ法ヲシムベキ行儀ヲ云フ  
 所謂練習トハ生徒ヲシテ能ク教訓ト模範トニ從ヒ之ヲ  
 躬行シテ好キ習慣ヲ得セシムルヲ務ムルナリ  
 此等ノ三者ハ互ニ相関係シテ離レザルモノニシテ一ヲ  
 欠ケバ用ヲ爲サズルモノナリ例之教師毎日修身ノ道ヲ  
 講ニ道德ノ行ヲ授クト雖自家ノ品行之ニ違フトキハ當  
 ニ生徒ノ道德ヲ改良スル能ハザルノミナラズ却テ生徒  
 ノ品行ヲ害スルニ至ル百回ノ講説ハ一回生徒ニ自家ノ  
 不品行ヲ認識セラル、爲ニ無功ニ歸スルモノナリ  
 教師口ニ教訓ニ自家品行亦模範タルニ足ルト雖之ヲ擴

張シテ生徒ニ躬行實踐セシムルニ注意セザルトキハ亦  
 無益ナリ總クテ體育ニ於テモ最練習ヲ重ズル如ク  
 此德育ニ於テハ殊ニ練習ヲ要スルナリ故ニ教師ハ教場  
 ニ於テモ遊歩場及食堂ニ於テモ其他都々テ生徒ニ對ス  
 ルトキ常ニ生徒ノ動作舉止ヲ觀察シテ善ヲ勸メ惡ヲ懲  
 シ務メテ生徒修身的諸德ヲ強壯ニシ之ヲ習慣ト爲サシ  
 ムルニ心ヲ竭サズルベシ  
 故ニ教師ハ此等ノ三者ニ常ニ偏重ナク並行シテ實施セ  
 非ルベカラズ然レドモ模範ト練習トハ本教師各自ニ修  
 練ト巧拙トニ關シ其方法ヲ細説スルニ由ナキヲ以テ今  
 此處ニテ多ク教訓ノ順序ト方法トニ係リテ其梗概ヲ  
 擧ゲン



### 第二 教師ノ注意

- 一、該課ヲ授クルトキハ教師ハ特ニ禮儀ヲ重シ容貌ヲ正クシ衣服ヲ整ヘ舉動ヲ慎ミ諸事嚴肅ナルヲ要ス
- 二、修身教場ニ裝置セル机案及諸器具等ハ殊ニ整然排列スルヲ要ス且生徒ノ感動ヲ提起スルニ足ルベキ聖賢ノ畫像遺書ヲ壁ニ掛ケ或ハ香ヲ薰ジ或ハ口授ヲ始ムル前後ニハ樂ヲ奏シ歌ヲ唱フ等ノ事ハ最望マシキコトナリ
- 三、修身口授ハ生徒ノ感動ヲ提起スルヲ以テ重要ナル目的ト爲スヲ以テ說話スベキ事實ヲ撰ムニ當リテハ先ツ其事實ノ感動ヲ起スベキヤ否ニ注意シ次ニ生徒ノ力ニ適スルヤ否ヲ考フベシ

四、若シ教師ノ言語適當ナラザルトキハ其事實ハ感動ス

ベキモノト雖決シテ其目的ヲ達スルヲ得ザルモノナ

レバ能ク此ニ注意シ雅正ニシテ明瞭ナル言語ヲ用井

鄙語方言等ヲ用井ルベカラズ且談話中ハ時ニ應ジテ

語調ヲ變化シ例之哀ムト事ヲ述ブルトキハ調ヲ緩

大ニシ威勢アルコトハ其或ハ形ヲ以テ說話ノ事項ヲ

聲ヲ高クシ急ニスルノ類模擬シ務メテ生徒ノ感動ヲ喚起スルニ注意スベシ

五、口授中ハ時々疑問ヲ發シ生徒ヲシテ是非善惡ヲ判決

スルノ習慣ヲ得セシムベシ

### 第三 順序方法

#### 第一步

第一步ニ於テハ生徒未ダ文字ノ智識ニ富マザレバ文字



二 關レテ講説スルハ甚ダ困難ニシテ隨ヒテ益少シ故ニ  
 説話ヲ主トシ格言ハタビ之ヲ諳誦セシムルヲ可トス且  
 其説話ハ生徒ノ日々實驗スル所及其他生徒ノ親知スル  
 事物ニ就キテ修身的諸徳ヲ醒覺スベキモノヲ撰ムベシ  
 該歩ニ於テ開發スベキ諸徳ハ概テ左ノ如キモノトス  
 正直、親切、慈惠、中庸、改過、遵約、從順、勉強、報恩等

之ト同時ニ禁歴スベキ諸項ハ  
 虚言、貪食、禽畜ノ虐待、他人ノ物ヲ取ルコト、不從順、不親  
 切、暴怒、吝嗇、罵詈等トス

教授法 第一例

小童玻璃ヲ破碎ス

一 題目 過ツテハ改ムルニ憚ルコト勿レ

二 説話 余ハ今汝等ニ説話ヲ爲サントス能ク注意シテ

聞キ之ヲ服膺スベシ

一日休憩時間中教師教場ニ在リ書ヲ閱スル際突然  
 或教場ニテ窓ノ玻璃ノ破碎スル聲ヲ聞ケリ  
 教師ハ固ヨリ遊歩場ニ遊戯セル一生徒ノ所爲タル  
 コトヲ知レドモソシラヌ顔ニテ其生徒ノ來リ謝ス  
 ルヤ否ヲ思考セリ暫クノ一生徒六歳ノ小童愀然トシテ  
 教師ノ室ニ入り來リ戰々慄々トシテ云ク先生今一  
 人ノ子供ガ玻璃ヲ破レリト且猶豫シテ其他ノ事ヲ  
 言ハズ教師ハ顔色ヲ和ゲ其カラ如何セシヤ隱サズ  
 之ヲ話スベシソレハ石ヲ抛ゲテ碎キタリ併ニ態ト  
 シタル試ニハアラズト云ヒテ再ビ猶豫シ熟々教師



ノ顔ヲ咏ノ居タリ然レトモ教師ノ少シモ怒レル色  
 ナキヲ見テ忽チ悔過ノ心ヲ發シ奮テ曰ク實ハ私ガ  
 破リマシタ誠ニ惡キコトヲナシテ恐レ入りマシタ  
 教師ハ其生徒ノ手ヲ把リ大ニ之ヲ賞シテ曰ク汝ハ  
 極ノテ善キ生徒ナリ過ヲ知リテ眞實ヲ語レリ賞ス  
 ベシタ々此後モ若シ過ヲナシタル時ハ決シテ隱サズ  
 直ニ眞實ヲ語ルベシト懇ニ諭シケレバ其生徒ハ謹  
 テ之ヲ聽キ心中大ニ愉快ヲ覺ヘ再拜シテ去レリ

三、適用 ○汝等ハ此生徒ニ就キテ如何ニ感ズルヤ皆々  
 ノ思フ所ヲ語ルベシ種々答ヘ小童ノ入り來リシ時  
 何ト云ヒシヤ△一人ノ子供ガ玻璃ヲ破リマシタト  
 云ヒタリ○其後ハ如何ナリシヤ△彼生徒ハ猶豫シ

マシタ○此事ハ如何思フヤ色ハノ答○猶豫スルハ  
 宜シカラズ彼生徒ハ先生ノ怒レル色ナキヲ見テ始  
 メテ謝セリ縱令先生ガ怒レル色アリトモ直ニ之ヲ  
 謝スベキナリ決シテ猶豫スベカラズ然ラバ汝等若  
 シ學校或ハ父母他人ノ物ヲ誤リテ破損シタルトキ  
 ハ如何スベキヤ△之ヲ隱サズ直ニ之ヲ謝シマスル  
 ○誠ニ善シ何事ニテモ若シ過チタルトキハ速ニ之  
 ヲ謝シ決シテ之ヲ隱スベカラズ此事ニ就キテ孔子  
 聖人ノ曰ヒシコトアリ之ヲ汝等ニ告グベシ能ク々々  
 記臆シテ忘ル、コト勿レ

過ツテハ改ムルニ憚ルコト勿レ

後之ヲ帳簿ニ記載セシム

書板 各唱



第二例

三様ノ兒童

甲、三郎ノ話

一、題目

貪リ食スルトキハ身ニ害アリ

二、説話

余ハ又汝等ニ面白キ説話ヲ爲シ聞カスベシ常

ノ如ク能ク注意肅聽セヨ

某村ニ三郎ト云フ小兒アリシガ既ニ六歳ニモナリ

タレバ父母ハ之ヲ學校ニ出セリ三郎ハ善良ナル生

徒ニシテ諸課ニ勉強シタルヲ以テ試業ノ時級中第

一座ヲ占ムルニ至レリ

故ニ母ハ大ニ之ヲ賞シ或ル日極メテ甘キ大ナル菓

子ヲ買ヒテ之ニ與ヘタリ色々ノ要ス答三郎ハ雀躍シテ

喜ビ之ヲ携ヘテ學校ニ至リ閑隙リヘアレバ獨之ヲ

食ヒシガ學校ノ終ルマデ猶食ヒ盡ス能ハズ

學校ヨリ歸リテ寢ニ就クマデ之ヲ食セリ寢ニ就ク

トキ猶殘餘アリシヲ以テ之ヲ枕上ニ置キ時々起キ

テ之ヲ食ス

斯クノ如クシテ遂ニ彼大ナル菓子ヲ殘リナク食ヒ

盡スニ至レリ

既ニシテ三郎ノ腹痛俄ニ起リ七顛ハ倒シテ苦メリ

母ハ大ニ驚キ悲ミ速ニ醫者ヲ招キ診察ヲ請ヒタル

ニ醫者ノ曰ク是レ全ク食傷ナリト之ニ苦キ藥ヲ與

ヘタリ

三郎ハ固ヨリ此ノ如キ苦キ藥ヲ好マザレドモ飲マ



ザレバ死ニ至ルヲ以テ巳ムヲ得ズ之ヲ飲ミ其後數日間卧蓐ニ在リテ後漸ク全快セリト云フ

三、適用

○汝等ハ此三郎ニ就キテ如何ニ考フルヤ答ヲ要ス

○汝等ハ飽マデ食物ヲ貪リ食ヒシコトナキヤ○都ベテ何物ニ限ラズ多ク食ヒ過ゴストキハ必ズ三郎ノ如キコトハ目前ニ來ルモノナリ故ニ平生ノ食物ト雖決シテ貪リ食フベカラズ菓子果物等ハ殊ニ慎ムベシ後題目ヲ帳簿ニ記載セシム

乙、二郎ノ話

一、主意

吝嗇ハ身ニ損アリ

二、説話

茲ニ又二郎ト云フモノアリ三郎ト同校ノ生徒ナリ

二郎亦學問ヲ務メタルヲ以テ其母之ニ大ナル菓子ヲ買ヒテ之ニ與ヘタリ此時二郎以爲ク三郎ノ如ク此甘キ菓子ノ爲ニ病人ト爲ルハ愚ナリ余ハ應ニ長ク之ヲ蓄フベシ

二、時

故ニ其菓子ヲ手箱ノ中ヘ入レ置キ一日ニ一度ツ、

一、時

極小片ヲ食シタリ

斯クノ如クシテ凡二三週間モ之ヲ食ヘドモ猶一大塊ヲ餘セリ

然ルニ或ル夜鼠來リテ箱ヲ噛ミ破リ菓子ノ一邊ヲ食ヒ去レリ加之餘リ長キ時日ヲ經タルヲ以テ儻ヲ

三、時

生ジ復食マルヲ得ザルニ至レリ

之ヲ見テ二郎ハ已ムヲ得ズ之ヲ庭ニ抛ゲ捨テタリ



然レドモ一人モ之ヲ憐ムモノナシ

三、適用 ○二郎ノ所爲ハ如何各思フ所ヲ語ルベシ 答ヲ要ス

○二郎ハ實ニ吝嗇ト云フベシ吝嗇ハ帝ニ愚ニシテ

賤ムベキノミナラズ却リテ身ニ損アルモノナリ 後題

目ヲ帳簿ニ記載セシムルコト前ニ同ジ

丙、太郎ノ話

一、題目 巳ノ欲スル所ヲ人ニ施セ

二、説話 茲ニ三郎及二郎ノ學友ニ太郎ト云フモノアリ

或日其母大ナル菓子ヲ作りテ之ニ付與セリ  
太郎ハ行儀正ク之ヲ受ケ後朋友ヲ招キ曰ク余ハ今  
母上ニ菓子ヲ戴ケリ皆々來リテ之ヲ食ヒ給ヘト

是ニ於テ數多ノ朋友ハ群リ來リテ太郎ノ傍ニ集レ

其時太郎ハ自身ニ一片ヲ取り其後一片ヅ、ヲ朋友

ニ與ヘ殆ド殘餘少キニ至レリ

太郎ハ其殘餘ヲ納メテ是レダケハ明日マデ蓄ヘ置

クベシト云ヒテ朋友ト親ク遊戯セリ

其際一人ノ年老ヒタルモノ路傍ニ吟ヒ來レリ此老

人ハ年ハ七十二近ク鬚鬢雪ノ如ク身ニ襤褸ヲ纏ヒ

手ニ長キ杖ヲ持テ喘キナガラ傍ノ石ニ腰ヲ掛ケツ

クツク子供ノ遊戯スルヲ咏メ居タリ

太郎ハ不圖其老人ヲ視ルニ兩眼ヨリ潸然ト涙ヲ流

シ兩頬ヲ濕セリ



太郎怪ミ問フテ曰ク汝ハ何處ノモノニテ何故ニ涙ヲ流スヤト  
 老人曰ク私モ皆様ノ如キ一子ヲ持チシガ十餘年前其子ニ死ニ別レ其ヨリ後ハ廣キ此世ニ一人モ便ルベキモノトテハナク日々人ニ傭レテ少シバカリノ賃錢ニ其日ノ命ヲ繫ギシガ一昨日ヨリハ病ニ侵カサレ身モ弱リ体モ疲レテ食物ヲ得ルニ使リナク殆ド飢渴ニ迫リタリ今皆様ノ壯健ナルヲ見テ吾ガ子ノ事ヲ想ヒ出シ其レサヘ此世ニ在ルナラバ斯ル憂キ目ハ見マジキモノヲト思ヘバ腸モ裂クバカリ覺ヘズ涙ヲ流セリト  
 聞キモ終ラズ太郎ハ憫サ堪ヘガタク是レハ少シバ

カリニテ迎モ飢ヲ凌グニ足ラドモトテ彼菓子ノ殘餘ヲ出シ之ヲ老人ニ贈レリ朝暮ニ菓子ヲ食シ老人ハ之ヲ戴キ太郎ノ優シキ心ニ感ジ又モ涙ニクレ居タリ

此時太郎ハ自身ニ十箇ノ菓子ヲ食ヒシヨリ猶心中ノ快キヲ覺ヘタリ

三、適用 ○太郎ニ就キテ如何考フルヤ答ヲ要ス○然リ太郎ノ所爲ハ最モ止ク最良キモノナリ○如何ナル所最良キヤ一々之ヲ話ス種々ノ要ス○然リ太郎ハ能ク人ノ心ヲ察シ自身ニ引當テ、考ヘ之ヲ人ニ施セリ汝等皆太郎ヲ學ビ凡々テノ事ヲ行ハミ決シテ過無ルベシ此事ニ付キ聖人ノ曰ヒシコトアリ



終リテ帳簿ニ記載セシム

書板各唱  
齊唱講義

附説 作法

第一歩ニ於テハ未ダ嚴格ナル禮法ヲ教授スルハ行レ難キ處アレバ六七歳ノ生徒ニハ唯普通人民間ニ行ハル、尋常ノ心得ヲ教授練習スルヲ以テ足ルベシ是レ却リテ日用ニ切緊ニシテ有益ナリ其事項ハ概子左ノ如シ

寢起ノ心得

出入ノ心得

食事ノ心得

父母長上及朋友ニ接スル心得

客ニ行キタル時ノ心得

客ノ來ル時ノ心得

途上ヲ歩行スル心得

茶菓子膳等ヲ進ムル心得

教授法 一例

教、汝等朝起キテ先ツ何事ヲスルヤ

生、盥嗽シマス

教、他生ハ如何

生、私ハ盥嗽シマセン

教、甲生ト乙生ノ云フ處何レカ善キ

生、甲生ノ云フ處ヲ善シトシマス

級決教可

教、然リ乙生ハ甚ダ宜カラズ朝起キレバ直ニ盥嗽スベ

キハ勿論ナリ乙生ハ今ヨリ之ヲ改メザルベカラズ

叔汝等ハ能ク盥嗽シテ後何ヲ爲スヤ

生、書物ヲ讀ミマス

教、猶アリヤ

生、草薙ニ行キマス



教、父母ニ對シテ如何スルヤ

生、父母ニ禮シマス

教、何ト云ヒテ禮スルヤ

生、ヲハヨウゴザリマスト云ヒテ禮シマス

級決教可

教、信ニ善シ余ハ今汝等ト禮ノ仕方ヲ研究スマシ先ヅ

一生來リ衆生徒ノ前ニテ毎朝父母ニ禮スル通り此

處ニテ之ヲ試ミルベシ

生、言ノ如クス

教、甲生ノ爲セシ處ヲ能ク注視セシヤ其仕方ハ如何

生、甲生ハ拜シタルノミニテ言ハザルヲ以テ宜シカ

級決教可

教、然ラバ乙生再ビ之ヲ試ミヨ

生、之ヲ爲ス

教、乙生ノ爲ス所ハ如何

生、善シ

教、然リ大抵可ナレドモ猶少シク宜シカラザル所アリ

即言急ニシテ拜スルコト靜ナラス丙生之ヲ試ミヨ

生、再ビ之ヲ試ム

教、丙生ノ仕方最適當ナリ汝等能ク之ヲ學バサルベカ

ラス丁生再ビ之ヲ試ミヨ

生、之ヲ試ム

(注意)斯クノ如クシテ殆ド全級生徒ヲシテ交番ニ練習セシムベシ且一生徒ノ出デ、試ミル毎ニ教師ハ他ノ生徒ト共ニ批評シ之ヲ矯正スベシ



教 今日ハ如何ナルコトヲ學ビシヤ  
生、朝起キテ直ニ盥嗽スベキコト、父母ニ禮スル仕方  
ヲ學ベリ

教 今日學ビタルコトヲ明日ヨリ正ク父母ニ禮スベ  
シ

(注意)右ニ方法ノ一例ヲ示セル如ク總ベテ作法ヲ授ク  
ル時ハ可成的實地ニ於テ之ヲ練習シ全級生徒ヲシテ  
一々之ヲ經驗セシムベシ

第二步

生徒漸ク文字ニ富ミ修身諸徳モ稍開發スルニ至レバ主  
トシテ聖賢ノ格言ヲ講論シテ專ラ孝行、友愛、信義、尊王、愛  
國等ニ関スル諸項第一歩ニ掲グル諸項ヲハ勿論ナリ加フルハヲ教授シ兼子

テ家ヲ修ムルノ法養生ノ法ヲ授クルヲ要ス此レト同時  
ニ高慢、無禮、輕蔑、怠惰、奢靡等ノ諸惡ヲ矯正スルヲ務ム  
ベシ

教授法 第一例

目的 表現力、再現力、判決力、修身的諸徳及言語文字ヲ練  
習ス

大意 善惡及小善モ爲スベク小惡モ爲スベカラザルノ  
觀念ヲ開發シ且言語文字ヲ教授ス

題目 善も惡も必ず小を積みて大に至る故に善小あり  
とてすべしとて惡小ありとて行ふべしとて

方法

教 (一)葉ノ端ニ一滴ノ水ヲ着ケ問フテ曰ク是ハ何ナリ



生、葉ノ先キニ水アリ

教、此水ハ其量如何

生、極メテ少シ唯一滴ノミ

教、此一滴ヲ集ムルトキハ如何ナルヤ

生、多クナルナリ

教、猶多ク増ストキハ如何

生、非常ニ多クナルナリ

教、其非常ニ多キ水ハ遂ニ何ト爲ルヤ

生、河ト爲ルナリ

教、河ハ遂ニ何ト爲ルヤ

生、海ト爲ルナリ

級決教可

級決教可

級決教可

教、然ラバ彼洪溶タル大海ハ何ト集リタルモノナリ

生、一滴ノ水ノ集リタルモノナリ

教、此一滴ノ水ハ海ヲ成スニハ如何ナル用アリヤ

生、極メテ緊要ナリ

教、何故ナリヤ

生、此等一小滴ノ集リ積ムニ非ザレバ決シテ大海ヲ爲

教、ス能ハザレバナリ

教、信ニ然リ汝等能ク此等ノ事ヲ記臆スベシ余ハ今汝

等ト共ニ一ノ緊要ナル事ヲ發見セントス汝等ハ如

何ナル事ヲ善キコト、云フヤ

生、父母ニ孝ヲ盡スコトナリ

級決教可  
各唱



教、猶アリヤ  
 生、勉強スルコトナリ  
 教、猶アリヤ  
 生、人ニ親切ヲ爲スコトナリ  
 教、猶アリヤ  
 生、忠義ヲ盡スコトナリ  
 教、然リ此等ハ皆善キコトナリ善キコト、云フコトヲ一字ニテ云フヲ得ルヤ  
 生、善ト云フナリ  
 教、善ト云フ字ヲ塗板ニ書シ得ルヤ  
 生、一生書板  
 教、然ラバ惡キコト、ハ如何ナル事ヲ云フヤ

級決 教可  
 各唱 齊唱

生、不孝ナル事ナリ  
 教、猶アリヤ  
 生、怠ル事ナリ  
 教、猶アリヤ  
 生、人ニ害ヲナス事ナリ  
 教、猶アリヤ  
 生、虚言スルコトナリ  
 教、然リ此等ハ皆惡キ事ナリ惡キト云フ字ヲ知ルヤ  
 生、一生書板  
 教、汝等先キニ孝行ヲ善ト云ヘリ茲ニ孝行者アリ此人ハ如何ニシテ孝行者トナリシヤ  
 生、父母ノ命ニ從フヲ以テナリ

級決 教可  
 各唱 齊唱



教、然リ然レドモ唯折々命ニ從フノミニテ可ナルヤ

生、然ラズ是レ孝行者ト云フヲ得ズ

教、長キ間ニ唯一度命ニ背クコトアラバ如何

生、是レ亦宜シカラズ唯一度タリトモ真ノ孝行者タル

教、然ラバ孝行者タランニハ如何ナルコトヲ務ムベ

生、每事父母ノ命ニ從フコトヲ務メザルベカラズ級決

教、之ヲ言ヒ換ヘテ如何ナル事が集リテ孝行者トナ

生、每事父母ノ命ニ從フコトガ集リテ孝行者トナレル

教、然ラバ惡人ハ如何ニシテ惡人ト爲リタルカ

生、惡キ事ヲ爲シタル故ナリ

教、最初ヨリ大惡ヲ爲セシカ

生、然ラズ最初ハ唯小ナル惡事ヲ爲セシノミ級決教可

教、唯小ナル惡事トハ如何

生、父母ノ一言ニ背ケリ

教、猶アリヤ

生、隣家ノ果物ヲ盜メド

教、猶アリヤ

生、父母ノ許サミル菓子ヲ食ヘリ

教、猶アリヤ

生、人ノ物ヲ借リテ返サズ



教、然リ然ラバ如何一ンテ惡人ト爲リシヤ

生、少シノ惡事ガ集リテ遂ニ惡人ト爲リシナリ級決 教可

教、然ルトキハ善モ惡モ如何成リ行クモノナリヤ

生、善モ惡モ少シノ事ガ集リテ大キクナルモノナ級決 教可

教、實ニ然リ最初余ハ水ニ就キテ如何ナルコトヲ話セ級決 教可

生、一滴ノ水集リテ大海ヲ爲スコトヲ學ベリ級決 教可

教、然リ大海モ一滴ヨリ成ル如ク善モ惡モ唯少シノ級決 教可

事ノ集リテ大善トナリ大惡ト爲ルモノナリ汝等級決 教可

ヨクヨク慎マズバアルベカラズ級決 教可

茲ニ格言アリ之ヲ教フマシ級決 教可

善モ惡モ必ず小を積みて大に至る級決 教可

教、然ラバ善ガ若シ小ナラバ如何スルヤ級決 教可

生、小ナリト雖之ヲ爲サバカラス級決 教可

教、少シノ惡事ナラバ如何級決 教可

生、縱令少シノ惡事ニテモ爲スベカラズ級決 教可

教、然リ之ヲ記スベシ級決 教可

前ニ掲ゲタル格言ニ續ケテ之ヲ記ス級決 教可

故ニ善ハ小ありとてすつべし級決 教可

行ふべし級決 教可

後生徒ノ各自ノ帳簿ニ記載セシム若シ書級決 教可

籍ニ就キテ授ケタルトキハ此時各生ヲシテ書級決 教可

ヲ出サシメ講讀セシムベシ級決 教可

普及舎藏版

三十二

普及舎藏版

三十二

普及舎藏版



教 汝等能ク常ニ此言ヲ誦シ之ヲ實踐躬行スベシ余モ亦汝等ノ動作ノ之ニ合スルヤ否ヲ注視スベシ再ビ前ノ格言ヲ齊唱セシム

此言ヲ誦シ之ヲ實踐躬行スベシ余モ亦汝等ノ動作ノ之ニ合スルヤ否ヲ注視スベシ再ビ前ノ格言ヲ齊唱セシム

讀方課

第一緒言

讀方課ハ總テ文字的教育ノ基礎普通學諸課中最緊要ナルモノニシテ教師ノ最重要ナル所ヲモテテ該課ヲ教授スル進程モ亦觀念ヲ先ニシ表出ヲ後ニスル主義ニ從ヒ生徒ノ平生談話シテ熟知スル所ノ事物ヲ書記セル符號即文字ヲ以テ認識セシムルヲ以テ目的トスベシ斯クノ如クスレバ生徒ノ文字ヲ學ブニ當リ唯其形ト音トニヨリテ空記スルノ弊ヲ免レ觀念ト文字トヲ結合シテ記憶スルヲ以テ其記憶ハ自ラ牢固ニシテ拔ケ難カルベシ故ニ教師ハ能ク斯ニ注意シ其初步ハ勿論讀本ヲ授クルトキト雖常ニ此意ヲ体シテ教授センコトヲ



要ス

### 第二 教師ノ注意

一、讀方課ハ固發音ヲ正スヲ以テ重要ナル目的トスルヲ以テ常ニ生徒ノ讀聲ニ注意シ之ヲ矯正スルヲ務メザルベカラズ

二、齊讀ノ際生徒ハ好ミテ節ヲ付ケ恰モ寺僧ノ經ヲ讀ム如キ調ヲ爲スモノナリ此等ハ極メテ惡キコトナレハ教師ハ嚴格ニ之ヲ制シ其弊ヲ一洗シ音調雅正章句ノ意ニ應ジテ其聲ヲ變化シ聽者ヲシテ明ニ其意ヲ理解セシハル様注意セシメサルベカラズ講義ノ時モ亦節ヲ付ケシメザルコトヲ務メ平生人ト談話スル如クナサシムルヲ要ス

### 第三 順序方法

#### 第一歩

一、いろは

教授法一例

一、目的 表現力、再現力、及言語文字ヲ練習ス

二、大意 い字ノ形ト音トヲ授ケ且之ヲ物名ニ適用スル

コトヲ教フ

#### 三、題目

#### 四、方法

教、いとヲ示シ是ハ何ナリヤ

生、いとナリ

教、物ヲモ示サズ口ニテモ言ハズシテ人ニ此物ヲ知ラ

級決教可



生、字ヲ書シテ知ラスヲ得ル  
級決 教可

教、此いとヲ示スベキ字ヲ知ルヤ  
知ラス

生、然ラバいとノハノ字ヨリ始ムベシ汝等ノ中知ルモ  
ノアリヤ

教、一生舉手  
書板 級決 教可

生、(注意)後教師黑板ニ改書シ各唱齊唱セシム  
前ニ書シタルハノ字ノ傍ニ大ナルハノ字ヲ書シ誰カ之  
ヲ讀ミ得ルヤ

教、(極小ナルハノ字ヲ記シ)誰カ之ヲ讀ミ得ルヤ  
各唱 齊唱

生、衆生舉手  
各唱 齊唱

教、誰カ來リテ板中ノ最大ナルハノ字ヲ指セ  
言ノ如クス  
級決 教可

生、誰カ來リテ最小ナルハノ字ヲ指セ  
言ノ如クス  
級決 教可

(注意)總ベテ生徒ヲシテ板中ノ字ヲ指サシムルトキ  
ハ教師ハ教策ヲ其生徒ニ付與シテ正シク指サシメ  
且衆生徒ヲシテ其生徒ノ能ク指シ得ルヤ否ニ注意  
セシムベシ

教、最初書シタルハノ字ヲ指セ  
級決 教可

生、言ノ如クス  
(注意)了リテ板上ニ在ル種々ノハノ字ヲ一々齊唱セシ



五、演習

教、余が最初示セシハ何ナリシゾ

生、いとナリ

教、其如クイヲ冠シタル物名ヲ擧グルヲ得ルヤ

生、いぬナリ

教、猶他ニ在リヤ

生、いーナリ

教、猶アリヤ

生、いたちナリ

教、**(注意)**右ノ方法ニヨリ生徒ノ知リタル所ヲ盡ク語ラ

シムルヤ

級決 教可

級決 教可

級決 教可

教、いはるは圖ヲ掲グ此中ニ今日學ビタル文字アリヤ

生、衆生擧手

教、誰カ來リテ之ヲ指スベシ

生、言ノ如クス

六、約習

教、今日ハ何ヲ學ビシヤ

生、い字ヲ習ヘリ

教、**(注意)**或ハ石盤ヲ出シ書取ラシムルモ可ナリ

右ノ如キ方法ヲ斟酌シるはにほへど等總ベテ順次ニ教

授スベシ但漸ク進ミテハ生徒ノ書キ得ルニ至レバ演習

ノ時唯物名ヲ言ハシムルノミナラズ黑板ニ一々書記セ

シムルヲ要ス且最初ハ一時間ニ九ソ一字ヲ授ケ漸次生

級決 教可  
各唱 齊唱

級決 教可



徒ノ心力發達スルニ從ヒテ其數ヲ增加スベシ

五十音ヲ授クルニ至レバ生徒ハ既ニハ是ハ學ビタルヲ以テア字ヲ教ヘントスルトキハ先ツ其字ヲ生徒ニ書

セシメ後片假名ニテハ如何ニ書スベキヤト問フ如ク總

ベテいろはト對照比較シテ授クルヲ要ス且物名ニ適用スルコトハハ字ヲ教ヘタル時ノ如クスベシ

五十音ハ發音ヲ正スニ最便利ナルモノナレバ教師能ク意ヲ注ギ精密ニ之ヲ教授セザルベカラズ

發音ヲ正ス一法ハ發音不正ナル兒童ヲシテア—イ—ウ—エ—オ—ノ如ク長ク呼バシメ其口唇齒舌喉ノ模様ヲ觀察シテ之ヲ矯正スルコト最便利ナリハ文字マ—

三、濁音及次清音

此時ニ至レバ假名片假名共ニ學ビタルヲ以テ亦之ニ本ヅキテ教フルヲ善シトス例之ガ或ハガヲ授ケントス

ルトキハ先ヅ生徒ニカ或ハカヲ黑板ニ記セシメ後此ノカ字ヲシテガ音ヲ發セシメンニハ如何スヘキヤノ問ヲ

發シ右方ニツラ點ズルコトヲ發見セシメ或ハ之ヲ教フ九ベテ斯クノ如キ進程ニヨリテ濁音次清音ヲ教授スベ

シ且物名ニ適用スルコト即チイガかんひ等ヲ語ラシメ或ハ書板セシムルコトいろは及五十音ノ時ノ如クスベシ發音ヲ正スコトモ亦同ジ

四、短句

假名終リテ後漢字ノ單語ヲ教フルコトアレドモ是ハ讀



方教授ノ主義ニ適セザル所アルヲ以テ直ニ短句トシテ授クルヲ可トス

最初ハ名詞ノミヲ漢字ニテ記シ其他ハ兩假名ヲ互用シテ一句ト爲シ漸次ニ漢字ノ數ヲ増加ス例之この本はあつーコノ筆ハフトシ此墨はあかー此兒ハ猫ヲ捕ヘン、ス彼兒は石盤小字を習へり等ノ如ク通常用井ル單語ヲ集メテ短句ノ形ト爲シ教授スルヲ最便利ニシテ有益ナリトス

第二步

讀本

一、教授法ノ區分

(1) 教授ヲ始ムル前ニ教師ハ生徒ト暫時閒談話問答

シ若シ書中ニ圖畫ヲ夾ミクハトア生徒ヲシテ略

ボ本日學ブベキ主意ヲ了解セシメ且重要ナル文字

殊ニ生徒ノ初メ見ル文字ヲ塗板ニ拔書シ其讀方

及意義ヲ充分ニ理解セシムベシ

(ロ) 問答及摘書ヲ爲シタル後ハ生徒ヲシテ書ヲ開カシ

メ書ヲ出セ開ク等總ベ素讀セシム素讀ハ可成的生

ムベシト雖教師時々正ク誦讀素讀セシムル時ハ各

讀ト齊讀トヲ用井ルベシ各讀ノ時ハ指命サレタル

生徒ハ机側ニ出デ、直立シ立讀スルヲ要ス其体勢

見ル所ヲ

(ハ) 素讀ノ後講義ヲ爲サシム生徒ヲシテ講セシムルヲ



交番ニ爲サシム此時モ亦各讀ノ時ノ如ク指命サレ  
 ゼシム一齊ニ講ゼシムルコトハ甚ダ宜シカラズ且  
 生徒ノ講ズル譯語ハ同一ナルヲ要セズ能ク一句一  
 章ノ意ヲ了スレバ每生徒其譯語ヲ異ニスルモ不可  
 ナシ

二、体勢 讀本ヲ授クルトキハ各自書物ヲ持ツヲ以テ動  
 モスレバ体勢ヲ亂シ怠惰ノ状ヲ呈シ從テ注意ヲ減ズ  
 ルモノナレバ教師ハ預メ之ヲ防ギ時々嚴格ニ生徒ノ  
 体勢ヲ正スベシ且体勢ヲ正ストキハ自ラ胸廓ヲ開キ  
 讀聲ヲ發スルニ補益アルモノナリ之ヲ教授スル法ハ  
 概子左ノ如シ  
 第一、着座ノ体勢 之ヲ始ムル前ニ着座ノ体勢  
 用意ノ令ヲ發シ注意セシム

- (一) 兩足ヲ六十度ノ角ニ爲シ床上ニ靜止スベシ
- (二) 背ノ下部ヲ僅ニ椅子ノ後部ニ接シ成ルベクダケ後方  
ニ座スベシ
- (三) 膝ヲ殆ド直角ニ屈スベシ
- (四) 体ヲ少シ前面ニ傾ケ方正ニスベシ
- (五) 胸ヲ廓張スベシ
- (六) 兩手ハ小指ヲ下ニシ膝上ニ安ズベシ
- (七) 兩肩ヲ平均スベシ
- (八) 兩肩脚ハ平ニスベシ
- (九) 頭ヲ直立シ何レノ方ヘモ傾ケザルベシ
- (十) 顔ヲ少ク内ニ入ルベシ
- (十一) 全体ハ充分伸起スベシ



(十一) 兩眼ハ前面ヲ直視スベシ  
 (十二) 耳、肩、臑ハ一直線ニ在ルベシ  
 右ノ練習終リタル時ハ休メト令シ筋肉ヲ緩メ椅子ノ後部ニ傾カシム

(注意) 凡ベテ生徒ヲシテ書ヲ開カシムル前ニハ先ツ着座ノ體勢用意ヲ令シ前諸項ノ體勢ヲ取ラシメ後體ヲ少ク前方ニ傾ケ卓上ニ輕ク前臂ヲ安シ兩手ヲ以テ書物ヲ支へ拇指ヲ前ニシ他ノ四指ヲ背ニシ書物ハ凡ソ三度ノ角ニ斜立セシムベシ

第二、直立ノ體勢 之ヲ始ムル時ハ第一ニ立テ第二ニ用意ノ令ヲ發スベシ  
 (一) 兩踵ハ近接スベシ  
 (二) 兩足ハ外方ニ開キ凡ソ六十度ノ角ヲナスベシ

(三) 膝ハ直立ニスベシ

(四) 體ハ前方ニ方正ナルベシ

(五) 胸ハ故意ナク開張スベシ

(六) 兩臂ハ寬カニ兩側ニ垂ルベシ

(七) 兩肩ハ同一ノ高サニナスベシ

(八) 肩、胛骨ハ平ニスベシ

(九) 頭ハ可成的高ク直立シ何レノ方ヘモ傾カザルベシ

(十) 頤ハ少ク内ニ入ルベシ

(十一) 全體ハ充分高ク伸起スベシ

(十二) 體ハ少ク前方ニ傾キ其重サヲシテ躡ノ上ニ在ラシムベシ

(十三) 兩眼ハ前方ヲ直視スベシ



(四) 全体ノ形ハ耳、肩、腕、膝、踝ヲシテ一直線ナラシムベシ  
休メノ令ハ着座ノ体勢ノ時ノ如シ

(注意) 立讀ノ時ハ生徒ハ先ツ直立ノ体勢ヲ爲シ書物ヲ兩  
手ニテ支ヘ拇指ヲ前ニシ他面指ヲ背ニシ肘ヲ少ク前ニ  
出シ前臂ヲ九ソ九十五度ノ角トナシ頭及体ヲ屈セシメ  
ザル様ニスベシ

(三) 觀テ直立ニスルニテ  
四 本ノ前ニテ  
五 觀テ直立ニスルニテ  
六 觀テ直立ニスルニテ  
七 觀テ直立ニスルニテ  
八 觀テ直立ニスルニテ  
九 觀テ直立ニスルニテ  
十 觀テ直立ニスルニテ

作文課

第一 緒言

作文ハ讀方ト密接ノ關係ヲ有スルモノニシテ二者互ニ  
相裨補スルモノナリ而シテ其難易ハ則同シカラズ讀方  
ハ他人ノ排列セル文字ノ形ト音トヲ知り其含有スル觀  
念ヲ理解スルコトナレモ作文ニ至リテハ先ツ整頓セル  
觀念ヲ有シ文字ト文法トヨ自己ニ組成セザルベカラザ  
ルヲ以テ讀方ニ比スレバ文字ニ係リテ一層精確ナル觀  
察ト牢固ナル記憶ト鋭敏ナル想像トヲ要スルモノナレ  
ハ初生徒ニ作文ニ本旨ヲ望ムハ蓋能ハザル所ナリ故ニ  
教師ハ小學科ニ於テハ如何ナル方便ヲ以テ該課ヲ授ク  
ベキヤヲ特ニ講究セザルベカラズ



都て作文ヲ授クルノ方ニ二種アリ一ヲ復文的方法ト  
 シ一ヲ自作的方法トス復文的方法トハ既成ノ章句或ハ  
 文意ヲ書キ綴ラシムル様誘導スルヲ云ヒ自作的方法ト  
 ハ題ヲ與ヘテ各自ノ觀念ヲ表出セシムルヲ云フ普通小  
 學校ニ於テハ多クハ復文的方法ヲ用井テ作文ノ基礎ヲ  
 教フルヲ以テ足レリトス世ノ教師力ヲ該課ニ用井ルコ  
 ト多クシテ其効ヲ見ル少キモノハ蓋順序ナキ自作の方  
 法ニ依頼シテ生徒ヲシテ空ク呻吟苦思セシムルニ因ル  
 ナリ故ニ余ガ次ニ於テ漸次記載スル順序ハ多ク復文的  
 方法ニ関セリ然レバ余ハ全ク自作的方法ヲ廢絶スベシト云フニ非ラ  
 ズ該方法モ生徒ノ思考力ヲ養成スルニ必要ナレバ心

力開發ノ度ニ從ヒ時々之ヲ試ミシムルハ余ガ却リテ冀

望スル所ナリ

第二 教師ノ注意

一、該課ヲ授クルニハ文法上ノ順序ニ從ヒ易ヨリ難ニ簡  
 ヨリ繁ニ進ムベシ物品ノ順序ヲ以テスベカラズ例之  
 最初ハ名詞ノミ次ハ名詞ニ一ノ働詞ヲ加ヘ次ニ名詞  
 ト働詞ニ副詞ヲ加ヘテ授クル如キハ是レ文法上ノ順  
 序ニ從ヒシナリ机ヨリ椅子ニ移リ椅子ヨリ硯箱々々  
 ヨリ筆墨紙等ニ進ムハ物品ノ順序ヲ追フナリ  
 二、文法ノ一種ヲ授クルトキハ生徒ヲシテ之ヲ種々ノ物  
 品ニ適用シテ其文法ヲ確知スルニ至ルマデ熟練セシ  
 ムルヲ要ス例之此處ニ硯ト筆トアリト云フ一文法ヲ



授ケタルトキハ次ニ机ト椅子トヲ示シテ同文法ニテ綴ラシメ又紙ト鉛筆或ハ絲ト針等ヲ示シテ記セシメ全級生徒ノ同文法ニ熟スルマデ他ノ文法ニ移ルベカラザルガ如シ

三、適用スル物品ハ固ヨリ其順序ヲ論ゼザレドモ可成的生徒ノ喜ブベキモノ及平生熟知スル所ノ事物ヲ撰ムヲ要ス

四、生徒ヲシテ綴ラシメナル章句ハ盡ク各生徒ノ帳簿ニ正ク書キ取ラシムルヲ要ス且一週ニ一回ヅ、各生ノ帳簿ヲ取り寄セ之ヲ點檢シ若シ塗抹汚穢ナルモノアラバ之ヲ書キ改メシムベシ

### 第三 順序方法

#### 第一歩

一、平假名片假名ヲ以テ諸物名ヲ綴ラシム

#### (一) 教授法概略

(一) 平假名ヲ以テ物名ヲ綴ラシムルニハ先ヅ一行七字

ノ書取ヲ充分ニ習熟セシメ後此七字ニテ綴リ得ベ

キ物名は、い、と、ほ、ろ、ヲ盡ク綴ラシメ次ニち行ヲ書取ラ

シメい、ぬ、か、い、行中ノ字ト交ヘテ綴リ得ベキ物名は、い、ぬ、

か、い、ぬ、か、い、類ヲ悉皆書キ綴ラシムベシは、い、ぬ、か、い、行以下皆之

ニ倣ヒ漸次書キ取ルベキ物名ヲ増加スベシ且物名

ハ教師ヨリ告ゲズシテ生徒ヨリ語り出サシメ後綴

ラシムルヲ要ス

(二) 片假名教授法モ亦平假名ニ同ジケレドモ唯ア行ノ



ニテハ多クノ物名ヲ書キ取り得ザルヲ以テ一時  
ニカ行マデ書キ取ラシメ二行ノ中ニテ物名ヲ綴ラ  
シムベシサ行以下いろはノ時ニ同シ

二、兩假名及濁音次清音ノ練習

教授法概略

(一) 前ノ如クガギグゲゴ或ハガぎぐげごヲ書キ取ラシ  
メ兩假名ト交ヘテ諸物名 例之イガ、かぎ、クヲ綴ラシ  
ムベシ次清音亦同シ

三、拗音促音字音ノ練習

(一) キトシヤチヤヒヤミヤリヤニヤヲ書キ取ラシメ此  
際能ク右傍ノ短線ニ注意セシムベシ以下皆此ニ倣  
フ兩假名濁音次清音ヲ交ヘテ諸物名 例之き、やはん

類 ヲ綴ラシムベシキヨシヨチヨヒヨミヨリヨ

二、促音即カツハツコツスツセツチヨツラツリツソツ

ケツジツ字音オウキウケウコウシウセウソウチウ  
テウトウノウヘウホウメウモウユウヨウリウレウ

四、假名ノ短句

實物ヲ示シテ其名稱ヲ問ヒ次ニ其部分或ハ性質或ハ  
效用等ニ関シテ問答シ之ヲ一句ニ纏メシメ後各自ノ  
石盤ニ綴ラシムルヲ善シトス例之紙ヲ示シ其名ヲ問  
ヒ次ニ其色ハ如何ナルヤ及遂ニこのかみは、ろ、ナ  
ル一句ニ纏メテ語ラシメ後石盤ニ綴ラシムルガ如シ



且斯クノ如キ短句ノ外ニ短クシテ正キ會話ヲ直ニ書キ取ラシムルコトモ亦善キ練習ナレバ時々之ヲ爲サシムルヲ可トス

五、假名交リノ短句

近易ナル漢字ヲ交ヘ短句ヲ綴ラシム其教授法ハ假名ノ短句ノ時ニ同ジ唯漢字ノ最易キモノヨリ漸次難キモノニ及ビ且始メハ一字ヅハヲ交ヘ用井漸次其數ヲ増スヲ要ス

第二步

近易ノ庶物ヲ題トシ假名交リ文ヲ綴ラシム  
教授ニ関スル注意  
一、該歩ニ至レバ前歩ノ如ク全ク教師ノ作りタルモノ或

ハ他ノ書ニ在ル文章ヲ書キ取ラシムルニ及バズ故ニ教師ハ題ヲ與ヘ生徒ト問答シテ綴ルベキ順序ヲ定メ後其順序ニ從ヒテ記載セシムルヲ要ス例之植物ナラバ第一ニ其植物ノ產地第二ニ何時ニ花ヲ開キ何時實ヲ結ブヤ第三ニ其花ノ記載等動物ナラバ第一ニ其動物ノ特殊ナル部分第二ニ其常習ノ重要ナルモノ第三ニ其効用等人工物ナラバ第一ニ其種類第二ニ効用第三ニ何人ガ之ヲ製スルヤ第四ニ何處ニテ多ク作り出スヤ等ノ如ク教師ハ豫メ其順序ヲ指示シ或ハ黑板ニナテ後筆ヲ取ラシムベシ綴文中生徒ノ知ラザル文字ハ教師勿論之ヲ授クベシ此他幼童社會ニ起ル事物ノ記事及地理歴史等ニ関スル記事等モ皆此法ニテ綴ラシムルヲ得ベシ



二、右ノ如ク掲ダルト雖最初ヨリ斯ク完全ナル記載ヲ爲  
 サシムルノ意ニ非ズ該歩ニ於テモ亦易ヨリ難ニ進  
 ムノ主義ニ從ヒ始メニハ唯其部分ト簡短ナル一性質  
 ニ就キテ綴ラシメ次ニ效用等ヲ加フルガ如ク漸次ニ  
 其復雜ナルモノニ及ブヲ要ス且其記載法ニモ 動物 植物 人工物  
 等 等 然リベテ種々アリテ始ニ性質ヲ記シテ次ニ產地ヲ記ス  
 ルアリ或ハ效用ヲ先ニシテ部分ヲ後ニスル等舉ゲル  
 ニ暇アラズ從ヒテ文法モ自ラ變化ス故ニ教師ハ先ヅ  
 豫メ植物ノ記載法ハ通常幾種アリヤ動物ノ記載法ハ  
 幾種カ人工物ハ幾種カヲ探索研究シテ其最簡短ナル  
 文法ヨリ漸次ニ教フルヲ要ス

三、該課ノ初メニ書シタル如ク該歩ニテモ亦一文法ヲ授

テタルトキハ他物ヲ用ヰテ其文法ヲ練熟セシムルコ  
 トヲ要スルハ論ヲ待タズ例之松ハ常盤木ニシテ其葉  
 ハ針ノ如ク而シテ其幹ハ建築用ノ良材ナリナル文章  
 即植物ノ性質葉ノ形幹ノ效用ニ就キタル一文法ヲ示  
 セルトキハ杉樅檜等ニ就キテ同文法ニテ綴ラシメ充  
 分熟習セシ後他ノ記載法ノ一種ニ移リ亦前ノ如ク練  
 習セシムベシ

附書牘文

教師ノ注意

一、書牘ノ初歩ヲ教フルニ書式類語即一筆一翰寸楮拜呈  
 啓上呈上御機嫌克御清穆等ノ類ヲ多ク書キ取ラシム  
 ルモノアレドモ是ハ連結ナキノ觀念ニシテ自ラ生徒



ノ記臆ヲ牢固ナラシムル能ハザルヲ以テ最初ヨリ簡  
單ナル口上書類ヲ教フルヲ最良ノ法トス書牘用熟字  
ハ要用ノ時之ヲ授クベシ  
二、總ベテ書牘ヲ授クルニハ假ニ一教場内ヲ一小社會ト  
見做シ其内ニテ互ニ徃復ヲ爲ス如キ方法ヲ用井テ教  
授スルヲ最宜シトス其方法ノ一例ヲ後ニ授ケタレバ  
參考スベシ

三、書牘文ノ書体ハ悉ク草書ヲ用井月日姓名番地等ノ記  
載法ヲモ丁寧ニ教ヘ熟習セシムルヲ要ス且時々私用  
文ハ半切紙ヲ用井公用文ハ定規ノ罫紙ニ擬シテ正ク  
綴ラシムルコトヲ練習スベシ  
四、書牘文ハ簡易ニシテ意ノ通ズルヲ要ス故ニ漢文ノ書

牘体ニ擬シ或小難澁ナル熟語等ヲ用井ルハ甚ダ宜シ  
カラザルコトトス

公用文モ亦近ヨリ遠ニ及ブノ主義ニ從ヒ教授ヲ受ク  
ル居地ニ普通ナル諸文例ヨリ教ヘ始ムルヲ要ス例之  
先ヅ其學校へ出ス諸公用文ヲ授ケ次ニ村落ナラバ戸  
長役場市街ナラバ郡役所區役所ハ各届願等ニ及ブガ  
如シ  
六、此他ノ注意ハ作文第二步ニ掲グル諸件ヲ參考スベ  
シ

教授法ノ一例  
一、題目 此橋の花並上り  
二、方法



教 (梅花ヲ持チ) 是ハ何ナリヤ

級決 教可

生 梅ノ花ナリ

教 梅ノ花ト書シ得ルモノアリヤ

生 一生來リテ書板ス

級決 教可

教 今此梅ノ花ヲ某生

姓名ヲ呼ビシテ 呼ヨリ某生

ラントスルニ言語ヲ用井ズシテ手紙ヲ以テセント

生 如何ニ書スベキヤ知ルモノハ舉手セヨ

教 數名舉手(一生ヲ指シ語ラシム)

生 此梅ノ花ヲ遣ルト書スベシ

教 其レニテモ意ハ通ズレドモ他ニ書方ヲ知ラザル

カ

生 此梅ノ花ヲ上ゲマス

ト書ス

教 可ナリ上ゲマスト云フコトヲ他ニ書キ様ナキカ

生 差上マス

教 略ボ善シマスハ俗言ナリ他ニ如何ニ書スベキヤ

生 候ト書シマス(知ラザレバ教フ)

教 最初ヨリ連子テ語ルベシ

生 此梅ノ花差上候

教 差上候ト書シ得ルヤ

生 言ノ如クス

教 全文ヲ改メ書スベシ

生 一生言ノ如クス

教 石盤ヲ出シ此文ヲ書スルコトヲ學ブベシ

生 言ノ如クス



教 帳簿ヲ出シ之ヲ記シ置クベシ  
 生 言ノ如クス  
 右ノ方法ヲ取捨シテ總ベテ書牘文ヲ授クルトキハ大ニ  
 生徒ニ裨益アルヲ信ズ

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

習字課

該課ハ方法ノ精密ナルヨリ寧ロ教師ノ書ヲ善クスルト  
 手本ノ良善ナルヲ習字時間ノ多キニヨリテ自ラ進歩  
 スルモノナルヲ以テ茲ニハ唯其略ヲ記スルノミ

第一 教師ノ注意

- 一、該課ニ於テ先ツ授クベキ文字ヲ板上ニ記シ其讀方ヲ  
 教ヘ後字形及運筆書方ヲ示シ終リテ習ハシム
- 二、生徒ノ字ヲ習フ間ハ教師常ニ机間ヲ巡回シテ字形ノ  
 惡キモノハ直チニ之ヲ正シ其甚シキモノ或ハ書方ヲ  
 誤リタルモノ等ヲ發見スルトキハ衆生ノ習字ヲ止メ  
 其文字ヲ塗板ニ書シ衆生ヲシテ之ヲ正サシムベシ



三、習字ノ道具ハ常ニ之ヲ検査シ可成の清潔ニ爲サシム  
ベシ殊ニ夏時ハ硯水腐敗シテ惡臭ヲ生ジ易キヲ以テ  
屢之ヲ洗ハシムベシ

### 第二 教授法

- 一、生徒入校ノ初ハ未ダ筆硯ノ取扱ニ馴レザルヲ以テ二  
三週間ハ石盤ニハ習ハシメ後習字帖ヲ與ヘ再  
ビ初メヨリ習ハシムベシ
- 二、石盤ニ習ハシムルニハ其大小ニ應ジテ四區或ハ六區  
ニ別チ其中ニ一字ヅ、書セシムベシ
- 三、淨書ハ習字帖ヲ與フル時ニ至リ始メテ之ヲ書カシム  
以下推知スベシ

### 改正教授術卷一終



